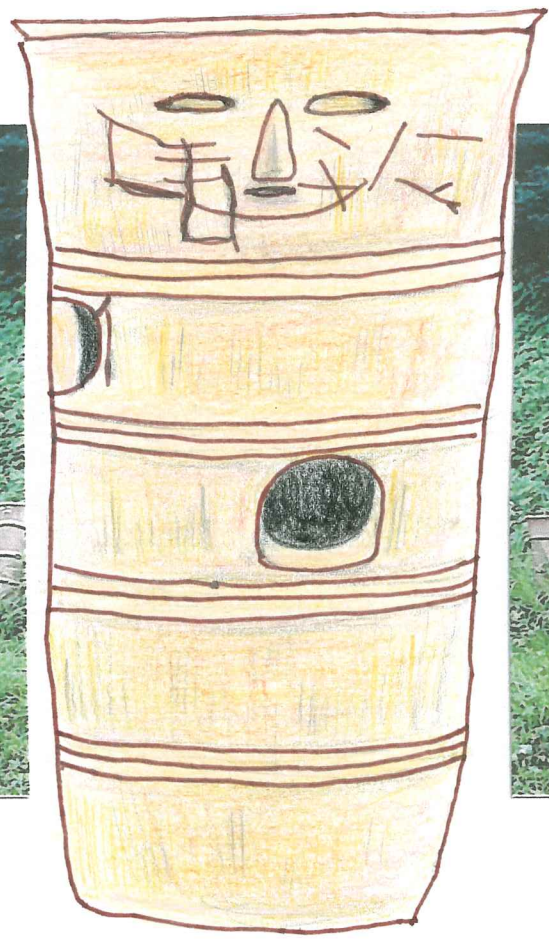


????????????????????  
なぜがいっぱい?!  
人面付円筒埴輪  
????????????????????



城南小学校  
6年荻原明音

# 1 はじめに

6世紀前半に作られた大室古墳群(前橋市)のなかの中二子古墳は、墳丘111メートルの大型古墳でありながら、石室が見つかっていない、ミステリアスな古墳だ。

その前方部の北側から出土したのが、人面付円筒埴輪だ。円筒埴輪に人面が付いているものはとてもめずらしく、北関東に数例あるくらいだ。

私は、この埴輪の、相手の心の中をじっと見すえるような目の力に、近寄りがたい魔力を感じて、もっとこの埴輪について調べてみたいと思った。

## 2 円筒埴輪の発生と役割

まずは、円筒埴輪の発生と役割について、調べてみた。

広瀬和雄さんの『知識ゼロからの古墳入門』には、次のように書いてあった。

円筒埴輪は、古墳時代の初期から見られる最もポピュラーな埴輪だ。朝顔形埴輪とともに古墳の周囲に置かれ、聖なる空間を区切る結界の役割を果たしたといわれる。その起源は、弥生時代の葬送儀礼の際の器台である。当時使われていた共飲共食儀礼では、酒や海の幸・山の羊など、様々なものを壺に入れて器台に盛り、捧げものとしていた。



★ 弥生時代の死者にささげる道具から、古墳を区切る結界へと変化していった円筒埴輪は、死者に関係し、死者を外界から守る埴輪と言える。

### 3 人面付円筒埴輪の例と「人面」の意味

次に、円筒埴輪に人面が出てきたなぞにせまっていきたい。

★ 人面付円筒埴輪の出土例(年代順)

①・高崎市の井出二子山古墳(5世紀後半)

②・栃木県足利市の行基平山頂古墳、7個体以上  
(6世紀初頭)

②について

※ 前方部北端の張り出し部。女子人物像・男子人物像などの形象埴輪群の最南端に並べられていた。古墳を守護する役割があったと推定される。(東京都埋蔵文化センターの広報誌「たまのよこやま118」)

★ この7個体以上の人面付円筒埴輪は、人物埴輪グループの最後に加わり、古墳を守っている。盾持ち人埴輪的な魔よけの役割をしているのではないか。

★ 盾の器財埴輪 → 盾持ち人埴輪  
円筒埴輪 → 人面付円筒埴輪

※ 発生仕方が似ている

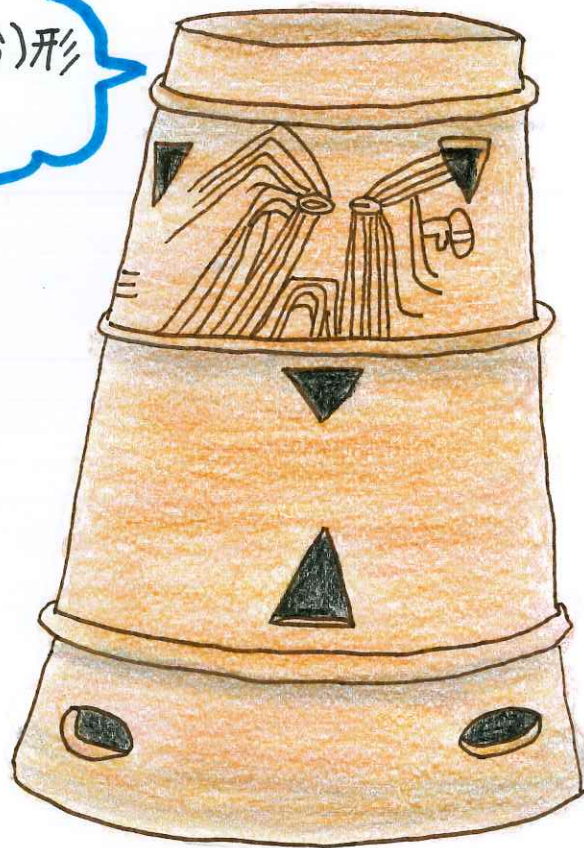
③・玉村町の小泉大塚越7号古墳(6世紀)  
※王冠のような表現がある。

④・中二子古墳(6世紀前半)

### ★人面付円筒埴輪の起源

・4世紀後半の人面付器台形埴輪  
(玉村町下郷天神山古墳)

器台(壺をのせる台)形  
の埴輪



すかし穴が三角形  
(古い埴輪)

(大室公園の大室はにわ館のレプリカのイラスト)

ひとみのない目から出るビームのように、直線がほってある。入れ墨を表しているようだ。とても目が強調されている。

左右の目の表現が  
異なっているのは、なぜだろう？



★ 行基平山頂古墳の人面付円筒埴輪の役割と、起源となる器台形埴輪が目力を強調していることを考えると、「人面」には、魔よけの意味があるのではないか、と思った。人面付円筒埴輪は、円筒埴輪をよりパワーアップさせた魔よけの埴輪と言えると思う。

## 4 だれが、なぜ、人面付円筒埴輪を作ったのか？

足利市の行基平山頂古墳と前橋市の中二子古墳の人面付円筒埴輪は、顔が似ているので、同じ埴輪職人が作った可能性がある。

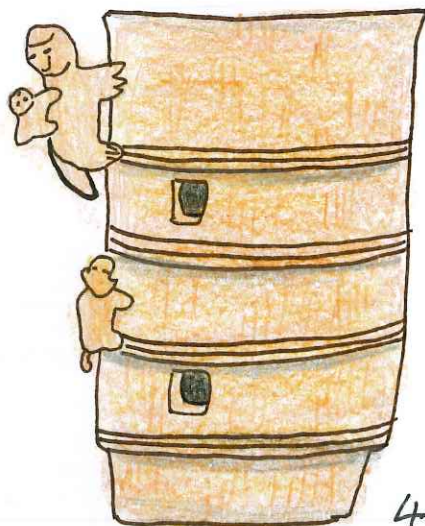
太田・藤岡、どちらかの窯だと思う。

そして、北関東にだけ、人面付円筒埴輪が見られることから、北関東の埴輪職人の独創性が表れている表現だと言える。

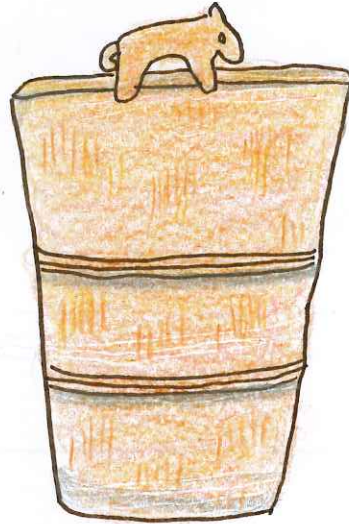


※ 北関東の埴輪職人の独創性を表している、その他の埴輪の例

- 後二子古墳の、猿の親子と犬が付いた小像付円筒埴輪



- 上縄引4号古墳(小ニ子古墳の北西)の、犬の小像が付いた小像付円筒埴輪



- 綿貫観音山古墳で出土した「小像」  
(円筒埴輪が出土したエリアから見つかった)



★これらの埴輪は、北関東の埴輪職人集団の中でも、遊び(人面を付けたり、王冠を表現したり、小像を付けたり)の許される技量のある職人が作ったのではないか?

(下手な例① 高崎市の少林山台3号墳のゆがんだ円筒埴輪『HANI一本』)

(下手な例② 高崎市の綿貫観音山古墳の円筒埴輪2本。突帯が曲がっていて、とう孔がゆがんでいる。

県歴史博物館 常設展)

注文を受け、大量の円筒埴輪を作らなければなら  
ないなか、未じゅくな職人は円筒埴輪、じゅく練の技を持った  
職人は人物埴輪や遊び心のある埴輪、というような  
役割分担があったのかも知れない。

では、技量のある職人は、なぜ人面付円筒埴輪を作っ  
たのだろうか。盾持ち人埴輪の魔よけのパワーを、  
円筒埴輪でも表現してみたのかも知れない。大きな古墳  
を造るなかでたくさんの埴輪を注文してくれた王への、  
ちょっとしたお守りのプレゼントだったのかも知れない。

## 5 おわりに

同じ人面付円筒埴輪でも、顔つきが似ているものや  
ちがっているものがある、おもしろかった。

北関東の人面付円筒埴輪が、すべて同じ窯で  
作られたものなのか、気になった。

埴輪職人集団の組織が、依頼を受けてどうい  
うふうに仕事を分担していたのか、知りたくなった。



いつも応援してくれた埴輪

## 参考文献

- 広瀬和雄『知識ゼロからの古墳入門』
- 東京都埋蔵文化センターの広報誌「たまのよこやま118」
- 『HANI一本』

## 訪れた場所

- 大室古墳群
- 大室公園の大室はにわ館
- 保渡田八幡塚古墳
- かみつけの里博物館
- 県歴史博物館企画展「綿貫観音山古墳のすべて」  
常設展